


茨城県

1. 商品名等

商品名	ぱくぱくプロテイン入りど〜なつ5個入		
商品写真(イメージ等)			
商品説明(コンセプト等)	<p>商品説明とコンセプト</p> <ol style="list-style-type: none">1 脳へのエネルギーである糖分と腹持ちの良いプロテインを使用2 ミルクチョコ、粉糖、ストロベリーチョコの3種類で飽きずに食べられる3 プロテインとドーナツの組み合わせの意外性に着目4 コンビニの店頭で目を引くパッケージ(水海道の「水」の青色をイメージ)5 e-Sportsプレイヤーの対戦中のモチベーション維持を支援		

2. 学校紹介

学校名	茨城県立水海道第二高等学校	電話	0297-22-1330
住所	茨城県常総市水海道橋本町 3549-4	F A X	0297-22-5489
担当者	橋本紀男	中山英司	船橋弘
U R L	https://www.mitsukaido2-h.ibk.ed.jp		
E-mail	koho@mitsukaido2-h.ibk.ed.jp		
<p>本校は明治44年に設立され、これまでに2万5千人を超える優秀な人材を輩出し、地域からの信頼を得ながら躍進している学校です。設置学科は、各学年とも、普通科3クラス、商業科2クラス、家政科1クラスであり、計18クラスを有します。平成7年度から男女共学となり、「自律」「協和」「優雅」の校訓のもと、豊かな人間性を培い、自律と協和の精神を育み、たくましい心身と優雅さを併せ持つ、社会に貢献できる生徒の育成を目指しております。現代は、グローバル化や情報化、多様化、そして少子高齢化が急速に進んでおります。そこで、本校ではそのような課題を乗り越えて持続可能な社会を目指す主体的な生徒を育成するとともに、生徒一人一人が輝く活力ある学校づくりを進めてまいりたいと考えます。何卒、ご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>令和5年度本校学校HP 学校長 海老沼 正 ごあいさつから引用</p>			

3. 実施科目等

科目名	総合実践	単位数	2単位
対象生徒	第3学年 35名	担当教員数	3名

4. 予算関係(費用)

茨城県高等学校教育研究会商業部会からの助成金で実施。

5. 開発経緯等

『e-Sportsメシ開発プロジェクトについて』

このプロジェクトは、コンビニエンスストアを運営する株式会社ローソンと角川ドワンゴ学園N高等学校ならびにS高等学校（以下N/S高）が、茨城県教育委員会、プロeスポーツゲーミングチーム「FAV gaming」の協力のもとに、「これからの日本文化を担うeスポーツの世界で活躍するプレイヤーをサポートする食品を企画・開発する」ことを目的として、N/S高が提供する課題解決型学習（PBL）「プロジェクトN」の授業の一環として本校も参加させていただき、2022年9月から2023年1月まで取り組んできたものです。

『水海道二高Bチームメンバーのコメント』

商業科に在籍していた生徒35人を9チーム編成で構成し、私たちBチーム（エビさん）は、個性的で独創的な発想力を持つメンバー4人で商品開発を行いました。PDCAサイクルのもとにブレインストーミングを繰り返し行い、お互いの意見や考えを尊重しつつ、一つ一つのアイデアを形にして試作を重ね、今回の「ぱくぱくプリテイン入りど〜なつ」の原型が完成しました。私たちメンバーは高校を卒業し、それぞれが選んだ進路先でのローソン様店舗で商品に出会うこととなりますが、関東甲信越4,800店舗で販売されるということで、私たちが考案した商品を送り出すことができたことは、誇らしい気持ちで感無量です。今回のプロジェクトでの学んだ経験を、これからの社会生活で活かせるように努力を継続していきます。

『商品説明の補足』

ドーナツ1個あたりのプロテイン摂取量は、粉糖・いちごチョコが1.9g、ミルクチョコが2.1gです。商品名にある「ぱくぱく」という擬態語は、e-Sportsプレイヤーの対戦中のモチベーション維持を支援したいという思いが込められています。

6. 販売形態・期間

①
・
無

株式会社ローソンの関東地方1都6県（東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県）と甲信越3県（山梨、長野、新潟）4,800店舗での販売形態です。
販売期間は、令和5年4月25日(火)から5月8日(月)の14日間で売切れ次第販売終了。

7. 協力者等

①
・
無

株式会社ローソン関東甲信越4,800店舗
角川ドワンゴ学園N高等学校/S高等学校
茨城県教育委員会
プロeスポーツゲーミングチーム「FAV gaming」

8. 商標登録の有無

有
・
無

なし

9. 今後の課題・展望等

今後は、商品開発という学びを糧に、消費者目線でご提案、ご提示できるようにしていきたい。